

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
昭和48年5月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第20巻 第2号

vol. 20 no. 2

物性研究

1973/5

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不相当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で *private communication* 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するために原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は *Progress, Journal* の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、o と a と 0 (ゼロ)、u と n と r、c と e、l (エル) と 1 (イチ)、x と \times (カケル)、u と v 等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。1頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷は原則として作りません。どうしても別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を50部単位で申込んで下さい。別刷代は下記方式により、現金で納入していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷1頁の代金 3円

b : 製本代(別刷1部につき) 30円

別刷代 = (ap + b) x + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

ニュース

[東大教養]

博士論文	岡本謙一	経路積分法のポーラロンへの応用
修士論文	仁木清	モード間相互作用
	有沢健治	固体ヘリウムの核磁気緩和
	小沢清智	Fe BO ₃ の多重マグノン・サイドバンド
	内藤豊昭	固体・液体相転移の統計力学
	武田重夫	経路積分法によるポーラロン・モビリティの計算

東大教養物性コロキウム

4/20	守谷氏	強磁性におけるスピンゆらぎの効果
5/11	広田氏	sine - Gerdon Eq. for Multiple Collision of Solitons
5/18	市川氏	水素分子の光電離断面積

[名古屋大学]

○物理教室談話会

3月27日 “芸術と科学” (特に進化と遺伝との関連において)

呉 祐吉氏

人のうごき

[東大教養]

○楠 正美氏 4月から明治大教養部の講師となりました。

○藤本文範先生がドイツへの出張から帰られました。

○物性理論は2名のM1を迎えました。

D3 (3名) D2 (1) D1 (4), M2(2) M1(2), 研究生(2)

プレプリント案内

[東北大・工・応物 桂研究室]

V. Mubayi, K. Krishan and C. K. Majumdar
Heisenberg Model for the 3×3 Square Lattice

M. E. Fisher and A. Aharony
Dipolar Interactions at Ferromagnetic Critical Points

R. Abe and S. Hikami
Some Remarks on the Power Law $1/n$ Expansion

R. Kikuchi
Phase Transition within a Phase Boundary. II.

M. Suzuki
On the Expansion Theory of Critical Exponents
- General Aspects and Some Applications -

Y. Yamazaki and M. Suzuki
Statistical Mechanics of the Anisotropic Heisenberg Model. I.

F. Harbus and H. Stanley
Use of Scaling Theory of Predit Amplitudes: Verification of
Double Power Law Behavior for Crossover of Lattice Dimensionality

T. Idogaki and N. Uryu
On the Magnetically Dilute Ferromagnetic System

V. Mubayi, C. K. Majumdar and K. Krishan
Distribution of Zeros of the Partition Function for Finite
Two - Dimensional Heisenberg Model

M. E. Fisher
Classical, n - Component Spin Systems or Fields with Negative
Even Integral n .

G. A. Baker, Jr. and G. R. Golner

プレプリント案内

Spin - Spin Correlations in an Ising Model for Which Scaling is Exact

T. Ishikawa and T. Oguchi

Spin Pair Correlation for an Isotropic Heisenberg Ferromagnet

T. Oguchi and T. Ishikawa

Theory of Two - Magnon Bound States in a Two - Dimensional Antiferromagnet

[東大教養]

- 73-S-28 W.L. Kruer, J. M. Dawson and B. Rosen
The Dipole Expansion Method for Plasma Simulation
Ref. PPL/MATT-930/72, Princeton
- 73-S-29 E. A. Frieman, et.al.
Toroidal Effects on Magnetohydrodynamic Modes in Tokamaks
Ref. PPL/MATT-942/72, Princeton
- 73-S-30 Toyama et. al.
Graphical Display of Data on Magnetic Tape Computed by
HITAC 8500 Computer, Using FACOM 230-35 Computer and
FACOM 6232A Graphic Display
Ref. IPPJ-T-10, Nagoya, 1972.
- 73-S-31 T. Nishiyama
Line width of Rotons in He II near the Threshold for Phonon
Emission
Ref. Osaka Univ.
- 73-S-32 V. Montelatici
Useful Formulae and Calculated Functions for the "Luminous"
Electron
Ref. LNF-72/56, Frascati (Roma)
- 73-S-33 C. Parisi
On Non Linear External Field Effects in Quasi-
Superconducting Films
Ref. LNF-72/76, Frascati (Roma)

- 73-S-34 G. Lucano et.al.
 Experimental Check of Non Linear Effects in Al. Thin Films
 Close to T_c
 Ref. LNF-72/77, Frascati (Roma)
- 73-S-35 R. Abe and S. Hikami
 Some Remarks on the Power Law in $1/n$ Expansion
 Ref. UT-Komaba, 1973
- 73-S-36 T. Izuyama
 Longitudinal Conductivity Sum-Rule
 Ref. UT- Komaba
- 73-S-37 V.J. Minkiewicz, T. A. Kitchens, C. Shirane and E. B. Osgood
 The Lattice Excitations of the He^4 Quantum Solids
 Ref. Brookhaven
- 73-S-38 Yasuo Yoshihuku
 Incomplete Reduction of the States in the Scattering of a
 Pair of Correlated Photons
 Ref. Univ. Tokyo
- 73-S-39 P. W. Anderson, R. Abou-Chakra and D. J. Thouless
 A Self-Consistent Theory of Localization
 Ref. Cavendish Laboratory
- 73-S-40 W. John
 Multiple Scattering Theory and Pseudogaps in Amorphous
 Covalent Semiconductors
 Dubna
- 73-S-41 B.S. Tosic and F. R. Vukajlovic
 Spin Phonon Interaction in the Heisenberg Ferromagnet
 Dubna
- 73-S-42 J.P. Hansen and D. Schiff
 Influence of Interatomic Repulsion on the Structure of
 Liquids at Melting
 Orsay

プレプリント案内

- 73-S-43 Atsuko Sumi and Yutaka Toyozawa
Discontinuity in the Polaron Ground State
Ref. ISSP/A565/1973, Roppongi
- 73-S-44 Kazuko Nagata and Yuzo Tomono
Antiferromagnetic Resonance Frequency in Quadratic Layer
Antiferromagnets
Ref. ISSP/A566/1973, Roppongi
- 73-S-45 Ichiya Sadakata
Effects of Impurities on Strongly Correlated Electrons in a
Narrow Band
Ref. ISSP/A567/1973, Roppongi
- 73-S-46 Shoichiro Sakoda and Yutaka Toyozawa
Theory of the Jahn-Teller Effect on the Optical Spectra of
Degenerate Exciton
Ref. ISSP/A568/1973, Roppongi
- 73-S-47 Tatsuko Yagi, Motoyuki Tsuda and Hiroo Inokuchi
Kinetic Studies on Hydrogenase.
Parahydrogen - Orthohydrogen Conversion and Hydrogen -
Deuterium Exchange Reactions
Ref. ISSP/A567/1973, Roppongi
- 73-S-48 Kohji Ohbayashi and Takeshi Igarashi
A Multi Channel Photon Correlator
Ref. ISSP/A570/1973, Roppongi
- 73-S-49 Sadao Nakajima
Paramagnon Effect on the BCS Transition in He³
Ref. ISSP/A571/1973, Roppongi
- 73-S-50 Yoshitake Yamazaki and Masuo Suzuki
Statistical Mechanics of the Anisotropic Heisenberg Model.1
- 73-S-51 Masuo Suzuki
On the Expansion Theory of Critical Exponent
-General Aspects and Some Applications -

- Ref. ISSP/A573/1973, Roppongi
- 73-S-52 Toru Moriya and Arisato Kawabata
Effect of Spin Fluctuations on Itinerant Electron
Ferromagnetism II
Ref. ISSP/A574/1973, Roppongi
- 73-S-53 Michel Gaudin
Circular Coulomb Lattice Gas
Ref. Dph-T/73/1, Saclay
- 73-S-54 Tomic B. S. and Vukajlovic F. R.
Spin-Phonon Interaction in the Heisenberg - Ferromagnet
Ref. JINR, E4-6842, Dubna, 1971
- 73-S-55 Plakida N. M. and Aksienov V. L.
Elastic Constants and Stability of Anharmonic Crystals
JINR, P4-6862, Dubna, 1972
- 73-S-56 Dmitrevskiy Yu. P. and Melnik Yu. M.
Thermal Acoustic Oscillations in Hydrogen, Nitrogen
and Oxygen
Ref. IHEP, 73-5, Serpukhov
- 73-S-57 Baratov et. al.
Tension State of Parabolic Lenses, Circulated by Strong
Electric Current
Ref. IHEP, 72-94, Serpukhov
- 73-S-58 Brankov J. G. and Shumovsky A. S.
On the Asymptotically Accurately Soluble Ferromagnetic
Model
Ref. JINR, P4-6899, Dubna, 1973

[久保研]

- (50) 19. Tatuō KaWASAKI
Mori Formula in Open Systems
- (51) 19. Harold Grad
Singular Limits of Solutions of Boltzmann's Equation
- (52) 19. Harold Weitzner
Stability of Long Helical Wavelength Free Boundary
Equilibria with Slightly Elliptical Cross Section
- (53) 19. Toru Moriya and Arisato Kawabata
Effect of Spin Fluctuations on Itinerant Electron
Ferromagnetism II
- (54) 2. Michael E. Fisher
Classical, n -Component Spin Systems or Fields With
Negative Even Integral n
- (55) 9. Takehiko Oguchi and Takuma Ishikawa
Theory of Two - Magnon Bound States in a Two - Dimensional
Antiferromagnet
- (56) 9. Takuma Ishikawa and Takehiko Oguchi
Spin Pair Correlation for an Isotropic Heisenberg
Ferromagnet
- (57) 13. Meera Gupta and N. D. Lane
CHARACTERISTICS OF POINTS OF ARCS ARE INFINITELY
DIFFERENTIABLE WITH RESPECT TO POLYNOMIALS

掲示板

◎ 資料集『ヘリウムの物性』についてのお知らせ。

科研費総合研究ヘリウム班では、メンバーの研究遂行上の一助として、LT12以後の「ヘリウムの物性に関するデータ」を集めて、資料集を作成致しました。未だ、若干、残分(約100部)がありますので、御希望の方は、下記宛先へ郵送料(100円×部数)を添えて、お申し込み下さい。

(宛先) 名古屋市千種区不老町, 名古屋大学, 理学部, 物理教室内
ヘリウム班事務局。

昭和48年4月16日

昭和48年度後期研究計画・アトム型研究員募集

京都大学基礎物理学研究所

所長 牧 二郎

昭和48年度後期の基研計画及びアトム型研究員を下記のように募集致します。長期・短期・モレキュール型研究計画の外に、従来の枠にとらわれない新しい研究計画の応募も歓迎致します。

記

1. 募集内容 別紙参照
2. 〆 切 1973年5月31日(必着)
基礎物理学研究所研究部員会議及び運営委員会(6月下旬の予定)で決定します。

掲示板

3. 宛 先 京都市左京区北白川追分町
京都大学基礎物理学研究所
共同利用事務室
075(751)2111 (代)(内線)7008

応募の際は適当な用紙に御記入の上、封筒の表に研究計画又はアトム型研究員
応募と明記して下さい。

A 研究計画

長期研究計画(あるテーマについて数ヶ月から1年にわたって連絡をとりつつ研
究を行なうもので、普通年1~2回研究会を行なっている。)

短期研究計画(あるテーマについて数日間研究会を行なう。)

モレキュール型研究計画

(数人が随時連絡をとりつつ研究する。)

イ) 研究テーマとその内容

応募書類はあらかじめ研究部員に配っておき、研究部員会議で充分討議致しま
すので、主旨及び問題点を具体的に書いて下さい。

ロ) 世話人及び提案説明者

世話人として主な研究計画立案者を二人以上あげ、その中の一人を連絡責任者
として指定して下さい。6月下旬の基研研究部員会議で提案の説明をしていた
だきますので提案説明者を決めて下さい。基研研究部員が参加者にいる場合は
なるべく研究部員が提案説明にあたって下さい。

ハ) 研究会及びその他の会合の開催希望時期

ニ) 研究会及びその他の会合に参加する研究者の予定数

ホ) 旅費及び校費の必要額(項目別に明記して下さい。)

B アトム型研究員

アトム型研究員は大学院生を含む研究者を対象とし、個人がある期間、当研究所

に滞在して研究を続けていただくものです。但し、特別の事情がある場合には当研究所以外を研究場所とする計画も認めております。

これについての詳細は第54回研究部員会議議事録

(1971年11月)22頁, “地方大学の研究条件の改善について”をごらん下さい。必要な場合には基研共同利用事務室へお問合せ下さい。なお、アトム型研究員は1月末, 5月末, 9月末に募集しております。

イ) 所属・身分及び連絡先

ロ) 研究テーマとその内容

計画の内容, 応募の目的をなるべく具体的に御記入下さい。他の研究計画と関連させて申し込まれる場合は, その旨明記して下さい。

ハ) 滞在希望時期及び期間

滞在期間は原則として1ヶ月～1年としますが, 場合によっては2週間程度でも結構です。応募者が一時期に殺到し, 基研の収容能力をこえる場合は, 一部時期の変更をお願いすることもあります。(昭和47年度の利用者は滞在6ヶ月, 3ヶ月各2人, 2ヶ月1人, 1ヶ月20人, 3週間1人, 2週間2人でした。)

C 新しい型の研究計画

研究部員会議の議論をふまえて, 従来の研究計画の枠にとらわれない計画に別枠の予算を用意致しますので御応募下さい。(第55回研究部員会議(1972年3月)議事録, 議題7参照)

基研研究部員会議議題募集

来る6月下旬に基礎物理学研究所の研究部員会議が行われる予定ですので、議題がございましたら提案趣旨とともに5月25日(金)必着で下記にお申し込みください。

京都市左京区北白川追分町

京都大学基礎物理学研究所

研究部員会議議長団

基礎物理学研究所研究生公募

京都大学基礎物理学研究所

所長 牧 二郎

今回当研究所では、外国出張中の岩崎洋一助手の休職期間を利用して下記の要領で「基礎物理学研究所研究生」を一名採用することになりましたので、希望者の応募をお願い致します。

(この研究生の性格について、第58回研究部員会議、第59回運営委員会議事録の当該箇所を御参照ください。)

記

- 1) 専門分野 広い意味での素粒子論(素粒子論, 原子核理論, 宇宙線理論及びその周辺)
- 2) 待遇 法的な身分は文部教官(助手)として発令されます。
- 3) 期間 1973年8月1日より1974年7月31日までの一年間、期間の延長は認められません。

- 4) 応募書類 履歴書, 研究歴, 発表論文リスト, 主要論文の別刷, 在任中の研究計画以上各2通推薦書(もしあれば), 連絡先
- 5) 締切 1973年5月31日(木)必着
- 6) 選考機関 基研運営委員会(6月下旬開催予定)にて書類選考を行ない場合によっては面接を行います。
- 7) 宛先 606 京都市左京区北白川追分町
京都大学基礎物理学研究所
牧 二郎

封筒の表に「基研研究生応募書類在中」と明記してください。

若い原子・分子物理, 固体理論研究者に対する フランスからのいざない

CNRS (Centre Nationale de la Recherche Scientifique) に属する研究機関に, Centre European de Calcul Atomique et Moleculaire と呼ばれる組織がある。所在地は Paris の Orsay である。このセンターの世話をしている Carl Moser 博士に去る一月, アメリカで会ったところ, 次のようなメッセージを日本の物理学者に伝えることを頼まれたので, 物性研究の誌上をお借りしてお知らせしたい。

そのセンターでは, ヨーロッパ諸国, アメリカその他との交流は順調に行われているが, 日本からの研究者を受け入れたことがなく, 是非日本との交流を軌道に乗せたいと考えて, 優秀な研究者が留学されることを強く希望している。条件は, 日本からの旅費支給, 期間は10ないし12ヶ月で滞在費は1ヶ月700フラン(これは現在のかわせ換算で, 約4万円, 決して多いとは言えない, 家族を持っておられる人は無理であろう, 若い科学者へのいざないとする理由である), 宿舎は世話をする。フランス語の読み書き, 話す能力若干を要求され, 簡単な試験があるが, その程度は一般の国費留学生ほどは高くない。センターの名前は原子, 分子の計算となっているが, 固体物理も含まれる

掲示板

からと Moser 博士は強調していた。もっともバンドの計算など、計算機を使った研究が中心なのであろうと筆者は推測している。なお同センターの現状やこの奨学金についてのより詳細な情報は、フランス大使館の Dupuis 博士 (Science Attaché) に問合わされればよいとのことである。

(北大・理 化学第 2 大 野 公 男 記)

投稿者各位へのお願い

— Progress 論文 (本文) 原稿の枚数制限について —

近年の投稿論文数の増加のため、Progress の総頁数は昨年度はついに出版能力の限界^{*)}をこえ、本年は昨年をさらに上まわる増加が予想されます。

しかも、最近数年間の掲載動文の動向を調べると、単に投稿数が増加しているばかりか、長文の論文の占める割合も増えつゝある傾向が見られます。1968年9月に現行の枚数制限 (50 枚迄) を決めて以降、投稿者各位に論文の表現を出来るだけ簡潔にする努力をお願いし、編集部もまたこの点に留意してまいったにも拘らず、上記のような状況があらわれております。

現在の財政状況と出版能力のもとでは、一号あたりの頁数には自ら限度がありますので、頁数の多い論文の掲載によって同じ号に載せられる他の論文の数が限られる結果となり、それが掲載の全般的な遅れを引き起す原因ともなっています。この事態を解消するため、1972年度については、止むなく Vol. 48 の No. 6 を 2 冊発行いたしました。この方式を今後繰返すことは、明らかに財政的危機を一段と深めるに過ぎません。

このまゝでは、掲載の異常な遅れか、さもなくば財政的破綻という事態に立至ります。このため編集部としましては、止むをえず以下の措置をとることになりました。即ち、今後投稿される際には、内容の一層の向上はもとより簡潔適切な表現に格段のご配慮をいただくと同時に、1973年8月1日以降に受理される論文について、論文原稿一篇の長さにつき次の制限を設けさせていただきたく存じます。

*) 360頁12冊, 年間約4300頁

(a) 原則として、投稿論文(本文)は標準原稿¹⁾で図を含めて²⁾35枚以内。

(勿論、論文の様式やタイプの打ち方の差異は考慮いたします。)

(b) 止むをえない理由によって論文の長さが35枚をこえる場合(ただし、図を含めて50枚以内)は、レフェリーの意見にもとずいて編集会議が特に認めた論文に限って掲載することにします。

なお、この場合に掲載が多少おくれることがあります。

註 1) A4の紙に double space でタイプ(pica size)したもの。

2) 図は、グラフ1つ→原稿 $\frac{1}{2}$ 枚、絵(illustrationのための簡単な図)1つ→原稿 $\frac{1}{4}$ 枚、と換算します。例えば、ある Fig. が(a),(b),(c)よりなるときは、図は3つと数えます。

上記の制限は、投稿者各位にご迷惑をおかけする措置と存じますが、このまゝでは Progress の刊行自体が不可能になる事態も予想されますので、Progress の現状をご諒察の上よろしくご協力下さるようお願いいたします。

1973年5月

Progress of Theoretical Physics 編集長

湯 川 秀 樹

(追記) Progress の刊行に関する資料は近く素粒子論研究、物性研究に掲載しますのでご参照下さい。

編 集 後 記

ああ、新芽が出たな、と思っているうちに、木々の緑は、日に日に深みを加え、さわやかな季節です。編集部では、読者の方々に御協力いただいた、「物性研究」に関するアンケートを整理し、ああだ、こうだ、と、議論しております。結論は、別の機会にまわすとして、得られた教訓は、十分生かし、本誌の発展に努力したいと思っています。しかし、残念ながら、今月号も、投稿論文が少ないものになってしまいました。特に、若手の人には、もっと気軽に、どんどん投稿していただきたいものです。例えば新聞でも、トムの“破局”の理論が、話題になっていますね。誰か、オレはこう思う、いや、あれは、こうだ、…………と、というようなものでも、書いていただけませんか。

(H . T .)

物 性 研 究

第 20 卷 第 2 号
1973年5月20日発行

発行人 松 田 博 嗣
京都市左京区北白川追分町
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

印刷所 昭和堂印刷所
京都市上京区上長者町通室町西入
TEL (441)1659 (431)4789

発行所 物性研究刊行会
京都市左京区北白川追分町
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

編 集 後 記

ああ、新芽が出たな、と思っているうちに、木々の緑は、日に日に深みを加え、さわやかな季節です。編集部では、読者の方々に御協力いただいた、「物性研究」に関するアンケートを整理し、ああだ、こうだ、と、議論しております。結論は、別の機会にまわすとして、得られた教訓は、十分生かし、本誌の発展に努力したいと思っています。しかし、残念ながら、今月号も、投稿論文が少ないものになってしまいました。特に、若手の人には、もっと気軽に、どんどん投稿していただきたいものです。例えば新聞でも、トムの“破局”の理論が、話題になっていますね。誰か、オレはこう思う、いや、あれは、こうだ、…………と、というようなものでも、書いていただけませんか。

(H . T .)

物 性 研 究

第 20 卷 第 2 号
1973年5月20日発行

発行人 松 田 博 嗣
京都市左京区北白川追分町
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

印刷所 昭和堂印刷所
京都市上京区上長者町通室町西入
TEL (441)1659 (431)4789

発行所 物性研究刊行会
京都市左京区北白川追分町
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

基 研 研 究 会 報 告

講読規定

個人講読

1. 会費 当会の会費は前納制をとっております。したがって、3月未までには必ず1年間分会費を御支払い下さい。なお新規講読の場合は下記の会費以外に入会金として、1,000円お支払い下さい。

1年間の会費

1. 1st volume	1,200円
2. 2nd volume	1,200円
	計 2,400円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です。)

2. 支払いの際の注意 なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
3. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購読者本人の名前を明記して下さい。
4. 誌代の支払遅滞の場合 当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols.以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止することになっておりますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合 個人購読中は大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人購読中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合 住所、勤務先の変更等送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関購読

1. 会費 学校、研究所等での購読及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1 Vol. 2,220円、1冊 3,700円です。この場合、入会金は不要です。学校、研究所の会費の支払いは後払いで結構です。しかし購読申込みをされる時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なのをお知らせ下さい。なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡 発行途上にある volume の購読途中中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前くらいは中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。

物 性 研 究 20-2 (5月号) 目 次

- 金属中点欠陥間の相互作用.....増田欣一... 3 8

- 振動構造の見られる光吸収スペクトルにおける
 λ_{\max} の意味と各種モーメントについて.....垣谷俊昭... 4 6

- ニュース..... 5 5

- プレプリント案内..... 5 6

- 掲 示 板..... 6 2

- 編集後記..... 7 0

- 基研研究会「自己組織・自己制御系の統計力学とその周辺」報告..... A 1

物 性 研 究 20-2 (5月号) 目 次

- 金属中点欠陥間の相互作用.....増田欣一... 3 8

- 振動構造の見られる光吸収スペクトルにおける
 λ_{\max} の意味と各種モーメントについて.....垣谷俊昭... 4 6

- ニュース..... 5 5

- プレプリント案内..... 5 6

- 掲 示 板..... 6 2

- 編集後記..... 7 0

- 基研研究会「自己組織・自己制御系の統計力学とその周辺」報告..... A 1